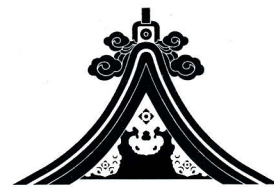




長門一宮
住吉神社



長門一宮住吉神社

〒751-0805 下関市一の宮住吉1-11-1 電話083-256-2656(代)

URL <http://www.tip.ne.jp/sumiyosi/>

E-mail: sumiyosi@tip.ne.jp

御祭神と御神徳

第一殿	住吉大神 <small>すみよしのおおかみ</small>	底筒男命 中筒男命 表筒男命	荒魂	お祓の神 交通の神 開運の神
第二殿	応神天皇 <small>おちじんてんのう</small>	(八幡大神)		産業の神
第三殿	武内宿祢命 <small>たけのうちのすくねのみこと</small>	(高良明神)		長寿の神
第四殿	神功皇后 <small>じんくごうごう</small>	(息長帯比売神)		安産の神
第五殿	建御名方命 <small>たけみなかたのみこと</small>	(諏訪明神)		武道の神

御由来

住吉の大神は、神代の昔、伊邪那岐命が黄泉国（死の世界）から帰って穢を清められた時出現された神であります。

仲哀天皇の九年（二〇〇年）神功皇后さまが三韓征討のときに再び現われ、「吾和魂は玉身の寿命を守り、荒魂は軍船を導かん」との御教示により大神を守り神として進軍いたし、その神助により交戦することなく戦勝いたしました。この神恩に感謝し、神功皇后さまは、この地に祠を建てて、住吉大神の荒魂をおまつりになったのが住吉神社の起こりであります。

爾来、長門の国一の宮と仰がれ、明治四年社格が制定されては官幣中社に列せられました。

荒魂・和魂とは、古代、神霊は荒魂と和魂という二つの靈魂により成り立つと考えられていました。荒魂は、人間生活促進のため、勇猛果敢に活動する御魂をいいます。和魂は、穏和で徳を備え、平和をもたらす御魂をいいます。

御社殿

本殿（国宝）は応安三年（一三七〇）大内弘世の再建で、室町初期の代表的な建築です。九間社流れ造りといって、五社殿を合の間に連絡し、社殿上の正面屋根（檜皮葺）に千鳥破風をのせ、春日造りと流れ造りを組合せた特徴のある建物です。拜殿（重文）は天文八年（一五三九）に毛利元就が寄進したものです。桁行三間、梁間一間の切妻造で、屋根は本殿同様檜皮葺です。



年間の祭典

一月 一日 歳旦祭

三日 元始祭

七日 追儺祭

十五日 大粥小粥祭

十六日 步射祭

旧元旦 和布刈祭

二月 十一日 紀元祭

十七日 祈年祭

三月 春分の日 「春季」皇霊殿遥拜式

四月 三日 神武天皇陵遥拜式

二十九日 昭和祭

五月第三日曜日 御田植祭

六月 三十日 大祓式

夏越 茅の輪くぐり

七月上旬 植付終了奉告祭

土用の日 虫除祭

八月 二十五日 風鎮祭・盆踊り

九月 二十二日 秋季大祭・前夜祭

二十三日 秋季大祭・神幸式

「秋季」皇霊殿遥拜式

十月 十七日 神嘗祭当日祭

十一月 三日 明治祭・献茶祭

十五日 七五三詣

二十三日 新嘗祭

十二月 一日 河渡祭

八日、十四日 御齋祭

十五日 例祭

二十三日 天長祭



和布刈神事絵図



献茶祭野点

特殊神事

和布刈祭 旧元旦

神功皇后が、この地に住吉大神を祀られた時、神主踐立に命じて、元旦未明壇ノ浦のわかめを刈り採らせ、神前にお供えした故事に始まります。現在も秘儀として厳粛に行われています。

御田植祭 五月第三日曜日

神功皇后が住吉大神に毎日お米をお供えするために、田圃を作り、苗を植え、御田植祭が行われるようになりました。今から千数百年前のことです。爾来、連綿と受継がれ、昭和二十八年より下関市農業祭として執り行われています。

河渡祭 十二月一日

永祿年間、毛利元就は、尼子氏と石見国の江の川を挟んで対峙しました。元就は、当社に戦勝を祈り、十二月一日未明、全軍に神酒・田作り・餅粥を振舞い、志気をあげて、一挙に河を渡り大勝を得たという故事による開運の祭りです。

御齋祭 十二月八日〜十五日(八日間)

御齋祭の期間は、境内にしめ縄を張り廻らし、人々の参拝を禁じ、神職は社外に一歩も出ない厳粛な物忌のまつりです。

これは、神功皇后が三韓征討の後、みずから心身を清められ、住吉大神の神恩に感謝されたという故事に起因します。

宝物

国の重要文化財

銅鐘(朝鮮鐘) 一口 高麗初期(約九〇〇年前) 年代不詳

住吉社法楽百首和歌短冊 一帖 明応四年(一四九五) 宗祇寄進

金銅牡丹唐草透唐鞍 一具 室町時代の作

国の重要美術品

後陽成天皇(第七代)宸翰御懷紙 一幅 天正十四年(一五八六)

霊元天皇(第一百二代)宸翰御懷紙 一幅 寛文三年(一六六三)

山口県指定文化財

住吉神社文書 二七九点

板絵着色繫馬図

狩野芳崖作の絵馬「予讓裂衣図」

下関市指定文化財

萌葱絲威肩白銅丸 一領



住吉社法楽百首和歌短冊 (重文)



金銅牡丹唐草透唐鞍 (重文)



御田植祭



銅鐘 (重文)

社叢（山口県指定・天然記念物）

本殿を囲む四、〇〇〇平方メートルの樹林は、神功皇后さま由縁ゆかりの杜であります。常緑広葉樹木を主とし、約八十種の植物があり、巨樹のなかに原生状態を保ち、原始時代からの植生を残しているといわれます。昭和四十二年山口県天然記念物に指定されました。

大楠

本殿の東方（二十米）に武内宿祢命たけのうちのすくねのみことが三韓出陣の際に植えたと伝えられる根回り六〇メートルに及ぶ大楠の古株があり、現在も繁茂しております。

真名井と船桶まなない

日々、住吉大神にお供えする御水は、上古、沖つ借島（現蓋井島）にある井戸の水を桶船で毎日運んでおりましたが、宝字年間（七五七〜七六四）、時の大宮司山田息磨は、風波の禍で、お供え出来ない日もあることを憂い、神意を伺い山田邑の御井に移したと伝えられます。

この真名井は、双水井ともいい、神社の南東一五〇米の所に現存し、湧出る清水は、毎日、神前に供えられています。

また、お水を移す時に用いた桶船は、その後、根が生えて繁茂し、船桶と呼ばれ真名井より三十メートル北にあります。

春夏秋冬



御田刈祭



冬の風景



盆踊り